

オンライン参加生徒への課題提示及び参加形態の工夫について

作成者 勝島 恵利

本学級の5名の生徒のうち、3名は自宅からオンラインで授業に参加している。そのため、ハイフレックス授業が日常となっており、各教科の担当が工夫をしているが、実技教科については、双方が同じ内容を同時展開することが困難である。保護者の理解を得た上で、別課題で対応する場面も出ており、保健体育では以下のように取り組んでいる。

 勝島恵利 ▶ 生徒3人
10月19日
19日 3時間目 体育

次の課題を各自で取り組んでください。

実技に関しては、運動会終了後の体育で個別テストを行います。

課題①ラジオ体操第1、第2・・動画を見ないでできるようになる。(実技テスト対象)

課題②南中ソーラン・・動画を見ないでできるようになる。(実技テスト対象)

課題③縄跳び・・さまざまな跳び方にチャレンジする。(参考動画あり)

<https://www.youtube.com/watch?v=ll5NN6FY6U&t=1s>

なわとび17種類の技

<https://www.youtube.com/watch?v=QXKfl9QwXEU> なぜ縄跳びが走りの改善につながるのか【為末大学】

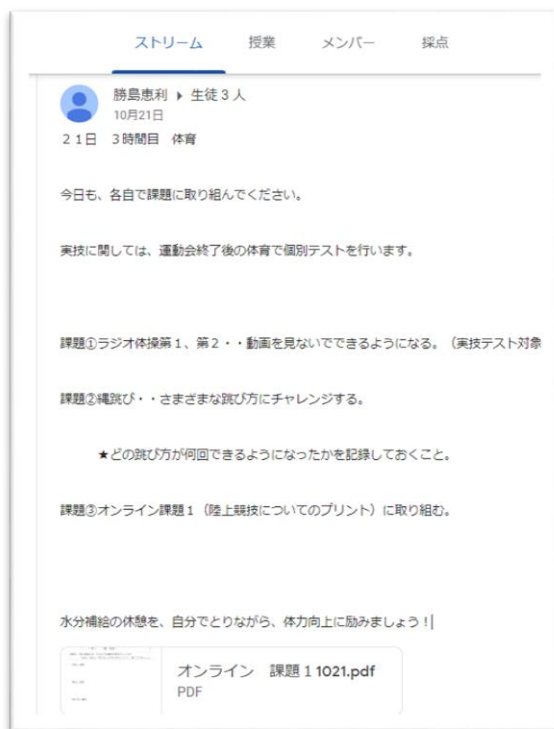
水分補給の休憩を、自分でとりながら、体力向上に励みましょう！

運動会予行では、動画等を参考にさせ、座学のみにならないよう、自宅で活動できることを課題として提示した。

3人で一緒にダンスをくり返し練習していたので、オンラインによる実技テストでは、動きがそろっており、意欲が感じられた。

生徒にも、オンラインでもよく練習していたことと動きがそろっていた点について評価した。

保護者にも、実技テストの様子や評価について、家庭訪問時に伝えている。



オンライン参加の生徒への課題の提示について、Googleクラスルームのストリームを利用した。

課題の提出については、宿題フォームへのアップでも、ペーパーでも可にしている。

授業中の様子が把握できないため、その時間にリアルタイムで取り組んでいるかどうかは、生徒を信頼するのみである。

さらに、各教科のプリントや教材を配布することも、時間差が生じるため、家庭訪問でまとめて配布している。教室で配布したものをあらかじめ伝えておき、いつ届けに行くのかを生徒にも伝えている。保護者には、電話やメール等で訪問を知らせ、要件を伝えている。

